判決の国境を越えた執行

Dr Alexander Ressos, TEP
Attorney-at-Law (Switzerland and Germany),
Solicitor (England & Wales and Hong Kong)
Of Counsel, KGP Legal LLC
alexander.ressos@kgplegal.com.sg
www.ressos.com.sg

執行可能性が法廷地の選択を左右する理由

判決の価値は、それに基づいて執行できる資産の価値によって決まります。ニューヨーク条約により、仲裁判断は172か国で執行することができます。[1] この広がりこそ、国際的な当事者が伝統的に訴訟よりも仲裁を好んできた主な理由です。したがってシンガポール国際商事裁判所（SICC）の成功は、債務者が資産を保有する場所でその判決を執行できるかどうかにかかっています。シンガポールはこの目標を4つの経路で追求しています。多国間条約、相互登録のための法律、裁判所間の二国間の取決め、そして各執行国の一般的な規則です。

管轄合意に関するハーグ条約

最も重要な手段は、2005年6月30日の管轄合意に関するハーグ条約（Hague Convention on Choice of Court Agreements）です。シンガポールは2015年3月25日に署名し、2016年6月2日に批准し、2016年10月1日から同条約に拘束されています。議会は2016年4月に管轄合意法（Choice of Court Agreements Act）を可決しており、これによりシンガポールは専用の立法によって同

© 2026 Dr Alexander Ressos. General information only, not legal, tax or investment advice. No client relationship is created. All Singapore law advice is provided by a duly licensed and regulated firm of Singapore advocates and solicitors only on the basis of an express written letter of engagement. More information at SingaporeIQ.com and ressos.com.sg.

条約を実施した最初の国となりました。[2] 当事者がSICCを含むシンガポールの裁判所を指定する専属的管轄合意を締結した場合、他の締約国の裁判所は、第9条に定める限定的な拒否事由のいずれかに該当しない限り、その結果として下された判決を承認し執行しなければなりません。

同条約の締約国は39に上り、欧州連合とその加盟国、英国、メキシコ、モンテネグロ、ウクライナ、2025年7月1日以降のバーレーン、2025年1月1日以降のスイスが含まれます。中国と米国は署名していますが、批准していません。[3] 実務上の結果として、専属的管轄条項に基づくSICCの判決は、条約制度の下でロンドン、フランクフルト、パリ、チューリッヒ、ジュネーブにおいて執行することができます。これほどの広がりを提供できるアジアの裁判所はほとんどありません。

シンガポールは、その後に成立した2019年7月2日の判決に関するハーグ条約（Hague Judgments Convention）には加入していません。同条約は2023年9月1日に発効し、専属的管轄合意のない判決を対象としています。締約国には欧州連合、ウクライナ、ウルグアイ、そして2025年7月1日以降の英国が含まれます。[4] シンガポールが加入するかどうかは、今後10年間の未解決の課題の一つです。

REFJAに基づく法定登録

シンガポールにおける外国判決の登録の中心となる法律は、外国判決相互執行法（Reciprocal Enforcement of Foreign Judgments Act、REFJA）です。同法は相互主義に立脚しているため、海外でのシンガポール判決にとっても重要です。同法により、指定国の判決は新たな訴訟を提起することなくシンガポールで登録することができます。改正以降、同法は裁判上の和解、同意判決、金銭判決と非金銭判決、中間命令を対象としています。[5] 非金銭判決への対象拡大は、2019年の改正によって導入されました。旧来の英連邦判決相互執行法（Reciprocal Enforcement of Commonwealth Judgments Act）はその後廃止され、関係する英連邦の法域はREFJAの制度に移行し

© 2026 Dr Alexander Ressos. General information only, not legal, tax or investment advice. No client relationship is created. All Singapore law advice is provided by a duly licensed and regulated firm of Singapore advocates and solicitors only on the basis of an express written letter of engagement. More information at SingaporeIQ.com and ressos.com.sg.

ました。[6] 相互主義は双方向で意味を持ちます。自国の判決がシンガポールで登録される国は、シンガポールの判決にも同じ扱いを与える可能性が高くなります。

ガイダンス覚書

条約も法律も適用されない場合のために、最高裁判所は外国の裁判所とガイダンス覚書（memoranda of guidance）を締結してきました。これらの文書に拘束力はありません。各裁判所が相手方の金銭判決の執行に関する自国法をどう理解しているかを示すもので、債権者が見通しを立てられるようにするものです。最高裁判所の一覧で日付が最も古い覚書は、2015年にドバイ国際金融センター（DIFC）の裁判所と締結したもので、2017年にカタール国際裁判所、2017年9月6日にバミューダ最高裁判所が続きました。[7] 最も重要なのは、2018年8月31日に署名された中国最高人民法院との覚書でした。この覚書は、法的拘束力を持たないことを明記しています。それでも債権者にとっては、中国の裁判所が商事事件におけるシンガポールの金銭判決を承認・執行する条件について、権威ある説明を得られるものとなりました。[8]

その後、ミャンマー、ルワンダ、バーレーン、そしてアブダビ・グローバル・マーケット（ADGM）の裁判所との覚書が続きました。シンガポールはまた、オーストラリアのビクトリア州最高裁判所商事部と書簡を交換しています。2026年9月16日、ソウルで開催されたアジア太平洋最高裁長官会議において、メノン最高裁長官と韓国のチョ・ヒデ（Jo Hee-de）大法院長は、金銭判決に関するガイダンス覚書と、外国法に関する情報交換についての了解覚書に署名しました。[9] このネットワークには一定のパターンが見られます。シンガポールは、湾岸の金融センター、アジアの主要な貿易相手国、そしてシンガポールの投資家が活動する国々との間で執行の連携を築いています。

© 2026 Dr Alexander Ressos. General information only, not legal, tax or investment advice. No client relationship is created. All Singapore law advice is provided by a duly licensed and regulated firm of Singapore advocates and solicitors only on the basis of an express written letter of engagement. More information at SingaporeIQ.com and ressos.com.sg.

コモン・ローと大陸法の経路

これらの手段のいずれも適用されない場合でも、シンガポールの判決は執行国の一般法に基づいて執行することができます。コモン・ローの法域では、債権者は一般に判決債務に基づいて訴えを提起し、その手続で外国の裁判所が本案を再審理することはまれです。大陸法の法域では、法典は通常、シンガポールの裁判所に管轄があり、判決が確定しており、適正な手続を経て得られたものであり、執行が公序に反せず、相互の保証がある場合に執行を認めています。[10] シンガポール最高裁判所の判決は、このようにして中国、日本、ベトナムで執行されてきました。南京の中国の裁判所は、早くも2016年に、相互主義に基づいてシンガポール高等法院の判決を承認しました。[11]

逆方向の執行も、金融センターにとっては同じく重要です。シンガポールの裁判所は、外国裁判所が国際的な意味での管轄を有し、判決が本案について確定的かつ終局的である場合、コモン・ロー上、外国の金銭判決を承認します。したがって、シンガポールの銀行やファミリーオフィスに資産を持つ債務者に対する判決を有する債権者は、詐欺、公序、自然的正義の違反という通常の抗弁に服することを条件に、それらの資産を追及することができます。正当な外国判決から資産を守るような金融センターは、たちまちその評判を失うでしょう。関連する刑事没収と国際刑事共助の問題については、第H部第V章で検討します。

注

1. UNCITRAL、ニューヨーク条約の締約状況一覧（uncitral.un.org、2026年11月最終閲覧）：締約国172。最も新しいのは東ティモール（2023年1月17日加入）。 ↩
2. Ministry of Law, press release “Singapore ratifies Hague Convention on Choice of Court Agreements”, 2016年6月2日（mlaw.gov.sg）：2015年3月25日署名、2016年6月2日批准、2016年10月1日にシンガポールについ

© 2026 Dr Alexander Ressos. General information only, not legal, tax or investment advice. No client relationship is created. All Singapore law advice is provided by a duly licensed and regulated firm of Singapore advocates and solicitors only on the basis of an express written letter of engagement. More information at SingaporeIQ.com and ressos.com.sg.

て発効。Choice of Court Agreements Actは2016年4月に可決。専用の立法により条約を実施した最初の国。SICCの判決は他の締約国により承認・執行される。 ↩

3. HCCH, “Status table: Convention of 30 June 2005 on Choice of Court Agreements”, hcch.net（2026年11月最終閲覧）：締約国39。シンガポールは2015年3月25日署名、2016年6月2日批准、2016年10月1日発効。欧州連合の承認は2015年10月1日発効。英国は2015年10月1日発効（2020年9月28日加入）。メキシコ。モンテネグロ（2018年8月1日）。ウクライナ（2023年8月1日）。バーレーン（2025年7月1日）。ほかにアルバニア、モルドバ共和国、北マケドニア、モナコ。スイス（2024年9月18日加入、2025年1月1日発効）。中国（2017年9月12日）と米国（2009年1月19日）は署名のみで批准なし。第9条の拒否事由については、Singapore Courts, “Enforcement of SICC Judgments”, judiciary.gov.sg（2025年1月13日最終更新）参照。 ↩

4. HCCH, “Status table: Convention of 2 July 2019 on the Recognition and Enforcement of Foreign Judgments in Civil or Commercial Matters”, hcch.net（2026年11月最終閲覧）：2023年9月1日に一般的に発効。EU加盟国とウクライナは2023年9月1日から、ウルグアイは2024年10月1日から、英国は2025年7月1日から、アルバニアとモンテネグロは2026年3月1日から、アンドラは2026年6月1日から。シンガポールは署名国・締約国として掲載されていない。 ↩

5. Singapore Courts, “Enforcement of SICC Judgments”, judiciary.gov.sg（2025年1月13日最終更新）：Reciprocal Enforcement of Foreign Judgments Actは、同法の対象国の判決（裁判上の和解、同意判決、金銭判決と非金銭判決、中間命令を含む）の相互承認・執行を定める。 ↩

6. Reciprocal Enforcement of Foreign Judgments (Amendment) Act 2019と、2023年3月1日付のReciprocal Enforcement of Commonwealth Judgments Actの廃止については、法務省の報道発表およびSingapore Statutes Online参照。 ↩

© 2026 Dr Alexander Ressos. General information only, not legal, tax or investment advice. No client relationship is created. All Singapore law advice is provided by a duly licensed and regulated firm of Singapore advocates and solicitors only on the basis of an express written letter of engagement. More information at SingaporeIQ.com and ressos.com.sg.

7. Singapore Courts, “Enforcement of Money Judgments”, judiciary.gov.sg（2026年11月最終閲覧）：バーレーン最高司法評議会、ルワンダ最高裁判所、ミャンマー連邦最高裁判所、中華人民共和国最高人民法院、バミューダ最高裁判所、カタール国際裁判所・紛争解決センター、ADGM裁判所およびDIFC裁判所とのガイダンス覚書、ならびにビクトリア州最高裁判所商事部との書簡交換。年は文書のファイル名による（DIFC 2015年、カタール2017年、バミューダ2017年9月6日、バーレーン2023年5月8日）。 ↩

8. Memorandum of Guidance between the Supreme People’s Court of the People’s Republic of China and the Supreme Court of Singapore on Recognition and Enforcement of Money Judgments in Commercial Cases、2018年8月31日に周強（Zhou Qiang）とスンダレシュ・メノンが署名（judiciary.gov.sg）：第1条（第6条〜第16条は中国におけるシンガポール判決、第17条〜第30条はシンガポールにおける中国判決、商事事件の金銭判決）。第2条（“This memorandum has no binding legal effect”）。 ↩

9. Singapore Courts, media release “Supreme Courts of Singapore and Korea sign new arrangements to support cross-border civil and commercial disputes”, 2026年9月16日（judiciary.gov.sg）：金銭判決の執行に関するガイダンス覚書と、外国法に関する情報の協力についての了解覚書。第20回アジア太平洋最高裁長官会議の際にソウルでスンダレシュ・メノン最高裁長官とチョ・ヒデ大法院長が署名。 ↩

10. Singapore Courts, “Enforcement of SICC Judgments”, judiciary.gov.sg（2025年1月13日最終更新）：コモン・ローの法域では、SICC判決を証拠とする判決債務に基づく訴訟で、本案の再審理は一般に考えにくい。大陸法の法域では、判決を下した裁判所の管轄、確定性、適正手続、公序、相互の保証が典型的な要件。最高裁判所の判決は中国、日本、ベトナムで執行されている。 ↩

© 2026 Dr Alexander Ressos. General information only, not legal, tax or investment advice. No client relationship is created. All Singapore law advice is provided by a duly licensed and regulated firm of Singapore advocates and solicitors only on the basis of an express written letter of engagement. More information at SingaporeIQ.com and ressos.com.sg.

11. 南京市中級人民法院による*Kolmar Group AG v Jiangsu Textile Industry (Group) Import & Export Co Ltd*（2016年）におけるシンガポール高等法院判決の承認。 ↩

Disclaimer

This article is provided for general information only. It is based on publicly available sources as at its date of publication. These sources have not been independently verified against licences, regulatory registers or the records of the entities concerned. It is not legal, tax, financial or investment advice. Nor is it a recommendation to invest in, transact with or use the services of any entity mentioned. Law and regulation change frequently, so the content may be incomplete or outdated. To the fullest extent permitted by law, Dr Alexander Ressos and the publisher of SingaporeIQ exclude all liability for loss or damage arising from the use of or reliance on this article. Readers should obtain advice on their specific circumstances before acting or refraining from action.

Names and trademarks of the entities discussed belong to their owners and are used for identification only. Their mention implies no endorsement, affiliation or allegation of wrongdoing. All Singapore law advice is provided by a duly licensed and regulated firm of Singapore advocates and solicitors only on the basis of an express written letter of engagement. Corrections and updates: contact@ressos.com.

© 2026 Dr Alexander Ressos. This article may be quoted with attribution to SingaporeIQ (SingaporeIQ.com). Reproduction in full and any commercial use require prior written consent. The Legal Terms at https://singaporeiq.com/legal-terms apply.

Author contact: Dr Alexander Ressos, TEP · contact@ressos.com